

I 会 話 科

1 会話科とは

城山西小学校は平成17年度、宇都宮市教育委員会より構造改革特別区の認定を受け[会話科]が設置された。[会話科]は、[ことばの時間 1・2年・・・5時間 3・4年・・・15時間 5・6年・・・17時間][英会話の時間 1・2年・・・20時間 3・4年・・・25時間 5・6年・・・35時間]から構成され、児童が主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度や能力を育てることを目標とした学習である。

2 「会話科」学習でめざすもの

[会話]とは、双方向の言葉のキャッチボールを通して成り立つものである。[ことばの時間]と[英会話の時間]の違いは、投げるボールが日本語なのか英語なのかにある。会話科でめざすことは、会話をすることで人間関係が広がり、児童自身が成長できること。『伝えたい』気持ちや『相手を理解したい』気持ちを育てること。話すことに自信をもち、会話を通して人間関係を構築しようとする意欲を育むことである。

3 ことばの時間

ことばの時間は、日本語での言語運用能力を伸ばすと共に、積極的に他者とコミュニケーションをとろうとする態度を育てることを目的とする。カリキュラムの骨子は宇都宮市教育委員会が作成した。国語との違いをはっきりさせるために、言葉の専門家との学習がカリキュラムの中に組まれている。子供たちと言葉の専門家との学習は、「本物に出会う」ことであり、従来の教科では得られないような体験をもつことができる。平成29年度の言葉の専門家との学習は、以下の表の通りである。（活動例については別紙）

言葉の専門家	学年	時数	学 習 内 容
宇都宮かるた会講師	全学年	2時間	・カルタ取りをしながら日本語の響きやリズムの美しさを感じ、百人一首に慣れる。 ・友達と対戦しながら百人一首のカルタ取りを楽しむ。
地域読み聞かせグループ	3年生	13時間	・「気持ちが伝わるような読み聞かせをしよう」を目標に、絵本の読み聞かせを通して、聞き手を意識した話し方を学ぶ。
劇団員	4年生	13時間	・声を出すための運動や言葉のキャッチボールなどの活動を通して、大きな声が出せるようにする。また、日常生活を題材にして、言葉や身体を使っでの効果的な表現を工夫しながら演じる。
落語家	5年生	6時間	・日本の古典芸能の「落語」を体験し、相手に自分の思いを伝えるためには、言葉だけではなく語気や間の取り方、仕草も大切であることを学ぶ。また、落語を語ったり、聞いたり、そのよさを発見しあったりすることで、コミュニケーションの楽しさを味わう。
下野民話の会講師	6年生	6時間	・民話の特性や独特の言い回しを学ぶとともに、実際に語ったり聞いたりする活動を通して民話の楽しさを味わう。
エフエム栃木アナウンサー シンガーソングライター	5・6年生	(学校) 2時間 エフエム栃木 (4時間)	・どうして声が出るかを考え、話すときの姿勢の大切さを確認する。その後、話すにはアクセント・イントネーション・滑舌などが大切な要素であることを学ぶ。 ・アナウンスやインタビューの仕方を工夫する。 ・「テーマ」や「メロディ」に合った歌詞を考え、スタジオで収録する(6年生)。

4 英会話の時間

英会話の学習では、様々な国の人と交流したいという意欲や、外国の人とでも国際的共通語である英語を使ってコミュニケーションをとろうとする態度を育てることを目的とする。ことばの時間同様、カリキュラムの骨子は宇都宮市教育委員会が作成したものを基に、自校化し学習を進めている。